

サラダ用ホウレンソウの品種特性比較			
【要約】 <u>サラダ用ホウレンソウ</u> では、 <u>収量は赤軸系品種の‘サラダあかり’</u> と <u>‘晩抽食彩’</u> 、 <u>食味は青軸系品種の‘サラダほうれんそう’</u> が優れ、 <u>可食部の硝酸イオン濃度とシュウ酸含量は青軸系品種が低く、貯蔵温度は</u> いずれの品種も4が適する。			
農業技術振興センター 栽培研究部 野菜担当		【実施期間】平成18～19年度	
【部会】農産	【分野】高品質化技術	【予算区分】県単	【成果分類】指導

【背景・ねらい】

安全・安心な野菜に対する消費者ニーズは高いが、環境こだわり農産物の認知度は低く、有利販売に結びついていない。環境こだわり農産物の商品力を高めるためにも、出荷の継続性と品目の多様性が必要である。そこで、新しい素材としてのサラダ用ホウレンソウの生育・収量および品質特性を検討する。

【成果の内容・特徴】

発芽率は、赤軸系の‘サラダあかり’がいずれの時期も安定して高い(データ略)。

収量は、赤軸系の‘サラダあかり’と‘晩抽食彩’が安定して多いが、青軸系品種では晩春～初夏まきで抽台が激しい(表1)。

食味は、青軸系の‘サラダほうれんそう’が葉身、葉柄ともに甘みが強くえぐみが弱く、優れるが、赤軸系の‘食彩’は葉柄部のえぐみが最も強く、劣る(図1)。

可食部中硝酸イオン濃度とシュウ酸含量は青軸系品種が低く、赤軸系品種で高い(図2)。

貯蔵性については、青軸系の‘ディンプル’は10以下に貯蔵しても新鮮重の減少が最も大きく、劣る(データ略)。4ではいずれの品種も、13日間貯蔵しても葉色は低下しないが、10貯蔵では赤軸系の‘サラダあかり’と‘食彩’を除くほとんどの品種で葉色が低下する(表2)。

【成果の活用面・留意点】

抽台が問題となる長日期では、青軸系サラダ用品種は大株に生育させない。

‘ディンプル’は大株にすると収穫時の折損が多いので注意する。

小株では硝酸イオン濃度およびシュウ酸含量が高くなるため、緩効性の肥料を効果的に用いることでこれらの低減を図るとともに、中～大株での利用に努める。また、多量摂取の防止なども併せて行う。

冷蔵庫で貯蔵する場合は、4程度を保つことが望ましい。

本成果は、慣行施肥での栽培により得られたものである。

[具体的データ]

表1 播種時期ごとの調製重の品種間差および抽台率の推移(2006~2007年)

供試品種	播種日 調査日	調製重(kg/m ²) ²					抽台率 ³ (%)					
		4/28	6/13	9/8	10/16	12/15	2/8	4/28		6/13		
		5/26	7/3-12	10/5	11/27	2/15-3/5	4/5	5/26	6/2	7/3	7/6	7/11
赤軸系 'サラダあかり' '食彩' '晩抽サラダあかり' '晩抽食彩'		1.9	0.9	0.8	1.3	1.7	1.5	23	97	0	14	72
		1.4	0.6	0.5	1.0	2.3	1.4	30	93	0	0	48
		-	-	0.9	1.2	1.3	1.6	-	-	-	-	-
		1.9	1.5	0.6	1.3	1.5	1.4	7	33	0	0	26
青軸系 'ディンプル' 'サラダほうれんそう'		2.6	0.4	1.0	1.9	2.3	2.7	90	100	17	83	97
		2.6	0.3	0.9	1.5	1.6	1.9	93	100	0	45	100
対 照 'アクティオン' 'パレード'		1.7	0.9	0.8	-	-	-	0	0	0	0	0
		-	-	-	1.4	1.5	2.2	-	-	-	-	-

² 調製重は、可販個体から子葉・黄化葉等を取り除いた重量。

³ 茎長2cm以上を抽台とした。

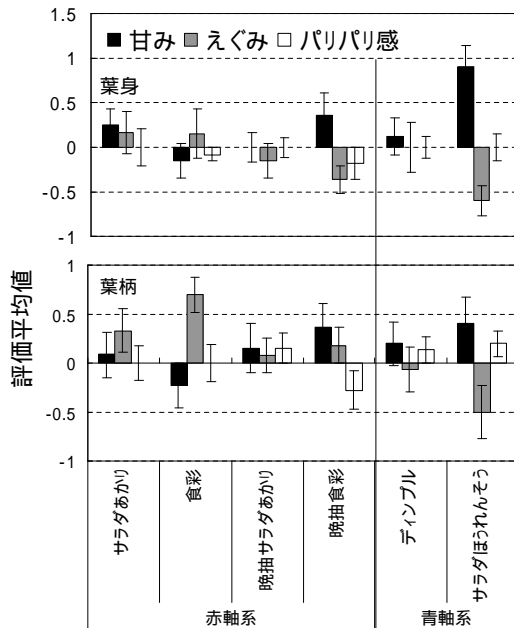


図1 食味評価結果(2007年)

各品種についてそれぞれの項目を対照品種('パレード')に対して-2~2(弱い~強い)の5段階で評価。

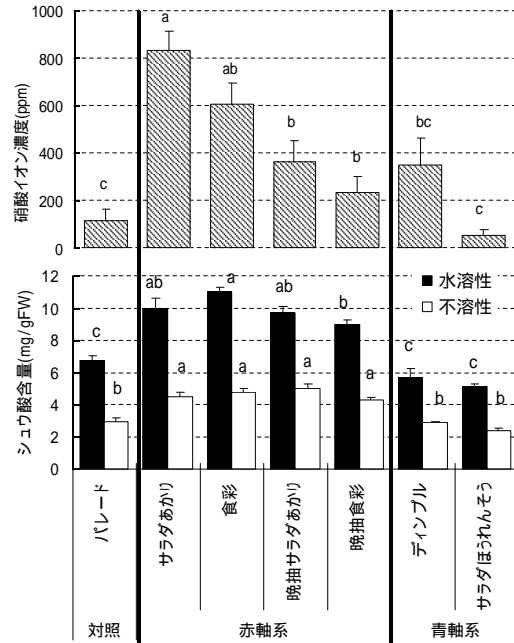


図2 可食部の硝酸イオン濃度およびシュウ酸含量の品種間差(2007年)

2月8日播種の個体を4月9日に収穫し供試。

)Tukey-Kramerの多重比較検定により同一測定項目内の異なる文字間に5%の有意差あり。

表2 サラダ用ホウレンソウの品種、貯蔵後日数および貯蔵温度が貯蔵中の葉色(SPAD値)に及ぼす影響²

温度	日数	赤軸系品種				青軸系品種		対照 パレード
		サラダあかり	食彩	晩抽 サラダあかり	晩抽食彩	ディンプル	サラダ ほうれんそう	
4	0日	60.2	57.3	54.5	58.4	39.7	49.4	49.4
	3日	61.5	53.6	56.6	55.0	41.5	49.6	49.6
	6日	62.0	53.5	58.3	58.1	41.1	50.1	50.1
	9日	62.3	55.8	56.5	56.8	41.1	48.6	48.6
	13日	60.1	54.8	55.0	56.8	42.7	47.8	47.8
10	0日	60.2	57.5	51.1	57.2	35.0	46.8	46.8
	3日	61.1	55.8	50.6	54.2	32.2	45.0	45.0
	6日	59.3	54.4	47.8	52.8	29.5	46.9	46.9
	9日	59.0	52.9	43.7	50.9	24.1	42.6	42.6
	13日	59.4	58.9	29.4	45.4	17.0	38.8	38.8

² 2007年4月10日収穫のホウレンソウを供試。

[その他]

・研究課題名

大課題名：琵琶湖の水質・生態系保全に配慮した特色ある農林水産技術の開発

中課題名：環境こだわり農業推進のための技術開発

小課題名：環境こだわり野菜生産技術確立事業

・研究担当者：松田眞一郎(H18-19)

・その他 平成17年度政策的試験研究課題